



関ヶ原軍記

三編 二千五
大尾 辛六

遠13
2207
48止



門 遠 13 特
冊 2207
巻 48 止

池清

関ヶ原軍記三篇巻之世五

目録

- 一 徳川家康公（トクガワノカネヨシ） 將軍
- 宣下（せんか）の事
- 并 朝鮮人來朝（しんじんらいてう）の事
- 一 大坂関東（おほさかかんとう）より 所威光輝（しんゑいこうけい）く 莫
- 并 伊井直政（いゑのちかまさ） 大病

和 漢 貸本所 東京牛込細工所 誠光堂 池田屋清吉

凡士農工商とも夫々の職分家業を固て持用の器物を言ふ
 今日と管む夏世界一般に然るに近世文字本の巻中不聊（ふりょう）が自家
 可也（か）種々の書入又ハ秋之賞味（あきのかみ）ありき本偶人感（ほんぐにんかん）見（み）甚（しん）き
 男女の陰翳（かげ）ありて画き君臣父子の中やう面と赤め合事
 同く多し是等ハ必竟一時の興（きよう）小察（せうさつ）しての戯（ぎ）遊（ゆう）なり
 其職分は道具ハ疵（きず）付（つ）り小癖（せうへく）とあり著述（しやくしゆ）拙（ちやく）く筆者（ひつしや）の得（と）り
 何れも只言語とて其遇（あひまひ）ちと各免（おのづから）巻中の戯画（ぎげ）樂書（がくしよ）詩（し）繪（え）
 池田屋清吉是と歎（なげ）然（しか）く夏世（なつよ）一固（いつこ）て素代（すろしろ）りて諸君子（しよくんし）祈（いの）るる（ら）爾
 磨石山人識

神君御見舞之成らせらるる夏



同ヶ原軍記二編卷之三拾五



徳川 康公とくがわ やまのり

將軍しやうぐん

宣下のたまひの事

并相解あひかた人素組らひづりの事

去河あきより天下あまのくにヤリあくあ治ありて

長八年あき正月あ依見ありあ於あて

泉康公いづみ やまのり御執事ごしやくじ天下あまのくにの事ありあく

平均なり又大坂の秀頼は
行相市正保護しりるは是も
吾皇千代成長を以て
秀頼は今の御聲故に知れり
とて其威を天下に金銀
三分二を以て城内の家柄に
しりる秀頼當年十歳に成り
るは保く
家康公乃

信せしめては時傳奉あつて
秀頼二位の内大臣に任ぜり
これに之を以て
信立也徳人此後を以て
秀頼は千代未だ征夷大將軍
に官ありこれよりついでに
の徳大將等比し御傳代に
合す下志を以て

將軍職のついでに海へいざなす
内府公 將軍職を弟に譲るあり
りしと申すに

家康公の作せしむるに
お軍子任友せんとも天下に政
をいし私しあり
中へ申すに
十歳と及べり古太閤業て

予と頼とをいしに
の忠義は忠と云ふに
よりその一は秀頼お軍職を
任官者も天下に政をいしに
池田清輝等裁判を申すに
存あり 予の志をいしに
関東に歸りて老を申すあり
存ありその

そのより大坂へ参りしんば淀屋
の大さきより参るるもさし
行相を甚ぶ難く身行進友招よ
るべきやこれ 内府公乃
市本心千所へ付方よりあり
る事とさしめ奉るるごらぬ
衣招く 仰せられし之殿
秀頼の内大臣小任友さし
ごらぬありと大さき
忠行さしめ奉るるごらぬ
と加度 池田 浅井おと
ていさださしめ奉るるごらぬ
見り参りて中へらわにケ年
此あつし 將軍 嶺 友さし
内府公乃 市本 理を天下に
るるごらぬ 御武徳

ごらぬありと大さき
忠行さしめ奉るるごらぬ
と加度 池田 浅井おと
ていさださしめ奉るるごらぬ
見り参りて中へらわにケ年
此あつし 將軍 嶺 友さし
内府公乃 市本 理を天下に
るるごらぬ 御武徳

城ありて下安ありは
に今秀頼はちりし十歳なり
天下治まり難うこれ我
招くは実初ありん又一日
將軍職ありてわが
家康公ありし所任友招りし
うしとのりしと行相が中
ありし加友 福嶋 池田 浅野

細川 山内 據酒等と
その外は徳大名も跡は
御傍代氣まで連く
家康公はくぐりと
このくしを辭退する
ざる事なりしと徳人の
子何とてまこと
秀頼十又歳に成りし

を將軍職を傳りて古太閤の
家督とすべしありて
秀忠は乃ち姫君に近日入粟と
の由定めりてはさぞ下安全
の機ありしにのぞく故に
家康公を理手將軍職に
しむるにありしに
者り評判とる遠ひく事
せん

清を志有しに之の如く
慶長八年三月廿八日
家康公御参内証表將軍從一
位左大臣に任じり時
御年六十歳に成りしに
志ありしに目か
家康公清初年此時より被
引矢の申すに御心骨あり
教年

此師大聖ありさしに在時師
来七人の音承平は侍格に
一故部のごとくありこのせり
御一門の多くは任者なり
所嫡子二男 秀忠公の御
右近衛大将たる秦山兼任
の結城秀康公も三位に叙せ
日本治まりてより以来の如く

わけて徳人の初めあり今
將軍職を昇りし人多くは
ありしものありし御南家乃
天下の盤石乃如く之勢て
秀忠公も江戸表に還御
家康公も矢張伏見に御居之
このと御解人來つて
此度乃將軍 宣下と登り

東の則ち三使来つるに能びし
中々たる後文録年中日本へ
挿しりて来りし是も人成乞
たてまつる別ち 所免子の
時より日本へ来つるあり強ち
古太谷のよりありは只
東照公の所武徳よりなるもの
ありんり

大坂園東とも所威光輝く
并井伴直政大病
神君所見舞に成る事

斯も天下を一統して
徳川家此所威光大なる輝
又大坂も所相且元貞実よし
て秀頼誠保護するにより同く

清威克有て安衆あり純るる
慶長八年の夏井伴直政克去之
世人古今稀なる忠臣として
室部千清諫言を中りたる

永康公志とせしやせしめり
永康公御隠居
新く 作出され後府より城
城築くせしむは彼地より移り

方くまのすく 永平

秀忠公は御軍 宣下有て

より目か度千歳を總也

永康公より利して大力量と

りしもあはれの子づら
侍負を成しめんとすの
劔術の達人もあらずに
まゝに發明形なるも

或ひは長崎 薩摩 石門 貞
任等 ちりれ ちる 匹夫の膏 小
して 百代の功 千の徳 兵
軍法のごとく 力と力つとく
ゆつとく 一石 一石 押さ 部 部
人の力量のまが 一石 一石 思す
をふるるといふ 指石 二十石よ
南の人といふとも 一石の徳 貴

目此 重り 四十斤 知り たり
一俵 ち 拾六 匁 目 あり 一人 力
といふ ち 一俵 一石 自由 あり
といふ 凡そ 人 男の 重さ ち
押さ ち して 十六 大 目 也
我 所 此 重さ ち ば 自由 あり
す ち といふ 事 ち 一人 力 あり
来 して 四斗 ち ち あり ち

いふあり却のおうくその
身は力量と取くまら時を
色分よりして一石決押を其
重法別しての事なり
平生此人ちうう強さる却
く身は害事ぬるお換決
好むが事してお換ぬあぬり
あやうらして一生の片痛

いの事集るまじや事此の
扱き善法働身病物未又ま
秋力と自悔して唯唯是
これ所と害まらぬり大お
ころ人を別して用ゆる
是れ唯唯智をゆめてす
時多車二十石つんで安
き人してひく又船を修る

万石地押しは只智恵分別
地ありて万量目ありて是
手と用心いぢりて自由の地
これ智植あり地を又智恵
とて手ぬぐひて活しく
美利口お作りてたちまち
大功を成すと見えぬ様
後の憂いと當て知るは形

有難き智謀とらへて有用の地
思ふにばとくく智謀と速
おく所を言はし智謀と
の随分能く作りて後日
勝負を待たぬのがとらへ
才一あり 家康公
急角千 悟思の深き以衣
おろり大槪の人を事 哉

侍少いれとを限りあり
却所年六十余歳を侍侍
有しわくは侍子孫の以爲
のまじりて御所を

上り正よの心志ありとぞ
時希と侍人よの壽之

初く
宣下有り日本五中此徳大名侍
徳川家康公一將軍

賀と中上なり関東乃旅らひお
且又大板の秀頼も大
臣に任官のよし
徳川家の
御聲もして在も旅らひたりし
このせみの別して

家康公乃御威光高く天下
一統千波風を吹かす
秀頼も又そ威光高く

南時二ヶ西此願主少りど
竹千不足もあつて重張の自由
知りその上干徳大名列して
物由氣能く名ひあそく
家康公は系初まへの上下姓来り
大坂へ来り敵上物中ても
家康公干お同トくして
多教も能く古大岡回好乃徳

大名の中少る當時無双乃智
常此将加藤肥後也 浅野左系
左系 福将左系乃左系乃三将
秀頼公は内目見乃幕お意よ
内接授次意乃作せらるる
とあ 威海城流して志変
小人干の鬼あつて古大岡乃中
と名ひいざりて干名ひ

天下の徳大名も日々代りく見
舞^まるぬ車政の病^び言^{こと}の十六文の
時^{とき}負^お向^む千^{せん}二ヶ所^{ふたところ}底^{そこ}を蒙^まむり
く大^{おほ}魚^{いさな}をとりけ^けそのち^ち取^とり
殺^{ころ}し^し千^{せん}言^{こと}を碎^{くだ}る^るを
常^{とこ}に又^{また}常^{とこ}にとも^{とも}直^{ただ}書^か
泉^い原^{はら}公^{こう}の影^{かげ}月^{げつ}に添^そえりし^しグ
そのち^ち取^とり^り手^て底^{そこ}を^をひく

うむり^{むり}言^{こと}ヶ^が泉^い原^{はら}も^も大^{おほ}底^{そこ}取^と
負^おりて大^{おほ}魚^{いさな}取^とり^りけ^ける^るを^を血^ち塵^{じん}
一^{いっ}部^ぶの^の由^{よし}千^{せん}取^とり^り業^{わざ}力^{ちから}を^を底^{そこ}
急^{いそ}ぐ^ぐ謀^ま略^{りやく}も^もこ^ころ^ろを^を考^{かう}め
百^{ひゃく}病^{びょう}も^もて大^{おほ}山^{さん}千^{せん}取^とり^り元^{もと}
氣^きち^ちく^くし^して^てま^まく^くも^もく^くは
今^{いま}の^のち^ちや^や言^{こと}秘^ひを^を徳^{とく}斗^とり^り世^よと
ふ^ふ言^{こと}千^{せん}取^とり^りん^んを

家康公ノ百年来ハお供ナり
御場ニお供ナり
御対面セざるべしナり
家康公ヲ井俣ニお
籠リ入リ所ニありテこの時ニ忠政ハ由リ
うけテお供ナりテ中ニありテ御
ふり肩ニ衣ヲけテ居テお供ナりテ合シ掌ニ
し御ニあり

家康公御後トてふ便ナり
名ニおん言ハ部ニ何レも御ニひ
あハるバ中ニべシ又ニ中ニ御ニとシ其
有リやシこの病ニ氣ヲを年ニごシら
予ニく名ニ御ニのつレれお供ナりテ其
御手ニづク清ニ心ニ急ニとシお供ナりテ
この時ニ忠政ハ中ニありテ兵ニ者トとシ
以テ奉ニ公ニのニりテ天下ニ泰ニ平トとシ其レ

有りは私一が始終くくあり
是よりいふ大坂の事あり何年
御在せはちらに心一統を稱がひ
中ありさそて新く是後お續の
事あふ天下は心大なる事べく
と恙なく存ぐ有りはあり候く
以新ヶ下されいふ力士依如山城
家中は法士指揮の事あり

御前よりお初め存り在は思費
掃部頭殿心中も健なり是色
もこれあり家中は法士の裁
判を仕り兼中さる御用なりも
お互中へさまの条衣掃部頭
相續 作存り下されは候よ
郎ひ有りは衣も兼進を私一
が父の子として分りたり又

日くく一せがれらるるむむ十文
少毛海邊中々近年はらち
内軍用の内車公を其りぬ
牌の故を掃部頭がころろり
ゆべまありとやうらると

家康公のついでに其方事
部れはたがくは故又たも
あり成程はの通りやあま

あり又牌百子代中の初年
の右列地二百石城あり成長
又掃部頭が建海として代
振替りまゝまあるれば必
事きあの中無れと彼乞の
お海で眼
還所と尺くまうらり
油漬
宮ヶ原軍記三編巻の世又終

池清

関ヶ原軍記三編卷之三拾六

并伴直政の建たて立たてり

神君かみ誠まこと徳とくめめををりりてて病やま免まのの事こと

并な加か呂ろのの老お后ご太た回わ但た馬ま者ものがが事こと

去こ河かららり

家い康や公こうも

并な伴な直ち政せい乃の病やま氣きはは足あ尾お舞ま者もの有あり

様さまはは咄とつありあり屋やががで

還所^{くえ}に^{きよ}船^{ふね}を^つ名^な取^とり^て備^びえ^りま^す所^{しよ}
志^しを^しく^くと^と止^とめ^りお^おそ^ん
あ^あが^が中^{ちゆう}に^に在^あり^て人^{ひと}法^{ほふ}工^く夫^ふと
中^{ちゆう}に^に御^ご深^{しん}意^い由^{よし}謀^{ぼう}畧^{りやく}等^{とう}万^{まん}一^{いつ}ん
私^しに^に在^ある^んと^とが^が中^{ちゆう}に^にお^おり^てび
中^{ちゆう}に^にさ^さが^がら^らぬ^ぬを^を遠^{とほ}く^くお^お船^{ふね}に^に在^あり
ゆ^ゆる^る故^こ法^{ほふ}を^を中^{ちゆう}に^に在^ある^ん人^{ひと}
志^しを^しく^くと^と止^とめ^りお^おそ^ん

が^が実^{じつ}船^{ふね}に^に勝^{かち}んで^で中^{ちゆう}に^に在^ある^んゆ^ゆに^に
と^と能^よく^くに^に用^{もち}ひ^ひ下^{くだ}され^るに^に
叔^{しゆく}軍^{ぐん}法^{ほふ}は^は是^{こゝ}有^あり^てく^くあ^あ
く^くに^に實^{じつ}せん^{せん}と^とす^する^る若^{わか}き^き階^{かゝ}び^びあ^あ
く^くに^に實^{じつ}と^とお^おり^てゆ^ゆの^の階^{かゝ}び^び
難^{なん}し^しと^との^の級^{きゆう}を^を能^よく^くに^に常^{じょう}
ゆ^ゆに^に思^しふ^ふ意^いに^にお^おり^てま^まあ^あ
代^{だい}り^りに^に旧^{きゆう}好^{こう}の^の徳^{とく}士^しの^の最^{さい}悪^{あく}賊^{さく}乳^{にゅう}

しむひあむりに 御前
出陣の者々無き振り 御忠意
事一あり 朕手新しごと記りの
ご年 頼下しこれ如きと 徳ゆ
取わり 疾りゆきよ 君を 追
御老年 こと放しせぬ 心を 是
とら又 徳人の忠 多く 平遠 して
御尊體の上 御大 刺し こと 近習

つらひき 徳後人の 倭奸 する
徳人の 縁り 迷り され こと
なす べんき こと 至 奈 色 ばう 事
ら ず 下 此 痛 こと 放 りの 也
又 徳 士 手 知 行 こと 終 りの 事
鬼 角 出 陣 人 振 りの 時 必 事
む こと 人の 依 依 最 頁 事 事
あり こと 御 こと 御 御 御 御

が宗形こそ能事本よりく
是を以て予言小室はるちあり
子の親事遠りるれのみ又を至実
此科人吾身松りる上此分此
内政及も此身松りるちや
あし中より新事
宗康公も還沖を後去部少捕
東政免去も時り此十三文あり

宗智の会身揮部既り遠云此
如く 作身の依松山城
拾万石石城既り又東政ケ婿
子万石代在り列知二万石と既
り井作を真心忠良の人既り
一生涯の功名を揚く真の屋
りん
宗一の人之を部少捕り
沖富宗三

宗康公へ倭人の獲るもの
と申す中へ一は和民の衆を太田
但るもが事と申せしこと
ゆりもれりあり虎狼の大
猛兇の毛物と申すは是れ
ゆりくお路く狐狸の妖怪
と云ふ人哉とあるは皆是
獲人の事と申すありの

古田但るもが利古小所の景
より先手は大小て二万石
領し衆を乃申して武勇
は和列衆とあるは倭
く利長乃師衆として名
夷人ありとの人の名来荒の
よしてついで殺生と好ま
能登之 敏中三ヶ五此肉を細細

しらく毛物を特法多と見るに
或時那より出く為りけけ
狐の子二疋を捕り但馬守是
其捕へて急皮押へけ奴惣
あり生金を物子宮とさ家
奴るればゆりいせど中二疋供
年判教しゆり終りたるの
狐二疋の死體其喰く大ま

悲む急志をとりあり但馬守
を鉄炮其多く又此妻狐を打
殺す志するに其言合より但馬
守が下人子其舟大ひり口走
りて見ゆり一月をさるるに
て但馬守と教をべし何の科
有る様子とるがめ書と教を
をけしみい必し心教をべ身

時但馬守も危へ飛おく途去り
りり利去心中 立後仕玉も去
昔流石も父利家以来同好の太
田あり仍くいろも出されむ
又田入目しては新へ来りて
にまゝ初めのごとく田居り
らんばけ交の喧拂ひとせらるる
彼者振句顔と見れば強但馬守

ありーが又忽ち平走り途
定め立去らんば交におめて搦石
千このせいの利長も大い
情有り妾を引いごして不義
りのありと只一太刀に切捨く
城千崎の南郊を右馬門 横山
山撤ちよ命トて太田を討つ
させらるるが但馬守が子供を

生害はるその後
方とてその殺生あり
悔りて純古をせよ又大守妻
改討ありて良なる山南指と物
語りて居たりし事あり
あし利古をれを考れて大いふ
悔りてとんぐと乳明はよ
の瓶乃事とや若あり大書

笑あひてさそわうとぐひそを
起せぎろふれとみとを
せしありと心身とくばこの
時より後人の事とん身を
利長も倭人を採る所との
右回廻るもこの時とく
改経せりとくは事世と
隠るる事と急
家康公も

所存^{きん}知^ちの事^{こと}ありこれ^{これ}直^{ちか}政^{せい}の
り^りの^の事^{こと}あり^{あり}富^ふ貴^きの^の後^ご
人^{ひと}能^よ身^みを^を中^{ちゆう}に^にし^しり

家^{いえ}康^{やま}公^{こう}所^{ところ}隠^{かく}居^い所^{ところ}遠^{えん}海^{かい}神^{しん}妙^{めう}

の^の中^{ちゆう}

并^{ひら}秀^{しゆ}忠^{ちゆう}公^{こう}は^は将^{しやう}軍^{ぐん} 宣^{せん}下^げの^の中^{ちゆう}

斯^{かく}多^た矣^い長^{ちやう}十^{じゆう}年^{ねん}

家^{いえ}康^{やま}公^{こう}作^{さく}也^やさ^さら^らい^い 予^よ世^{せい}に^に
決^{けつ}案^{あん}ず^ずら^らく^く真^ま事^{こと}に^にあ^ある^る特^{とく}
愛^{あい}あり^り幼^{ちゆう}年^{ねん}より^{より}弓^{きゆう}矢^やを^をあ^あて^て
お^お御^ご身^み一^{いつ}生^{せい}酒^{しゆ}の^のち^ち大^{だい}敵^{てき}と^と戦^{せん}
う^うの^の勝^{しょう}敗^{ぱい}を^をあ^あら^らわ^わす^すて^て喜^きひ
子^こ長^{ちやう}命^{めい}に^に 予^よ一^{いつ}人^{ひと}に^にあ^あり
く^く今^{いま}年^{ねん}日^{にっ}本^{ぽん}の^の旅^{りょ}余^よ別^{べつ}を^を振^{ふる}
天^{てん}下^げに^にあ^ある^るお^おの^のり^り法^{ほふ}士^し結^{けつ}ぶ^ぶ連^{れん}を^をあ^あり

て官位をお怠りなり又 予が位
官を脱身從一位右大臣征夷大将
軍命を六十に才なり實をや何
干ふ是も形 徳の古徳の
如く功成名遂く所退ぞくを
天乃道なり 秀忠の徳
壯年あり迎脱りこの徳を
仰出されく師懐りるまとの

出のあり 秀忠公の辭
退あつて今に又年の天下は復
成師を扱ひ顔ひまるとの
信せりなり 徳の
家康公をいやく 一日少くも
安樂を是く 只今の何よ不
是もあつてこの時なりと
信出され時日と接きべくべ

との中徳人志の中へ大賢の
家康公ありとひひそ中もさん
將軍 宣下以後未だ三ヶ年
を立ざる平部ののごとく 実や
知識あり功徳急とげく身退
そく天の及ありと孝子孫よ
出く任職何とぞ何とぞ成と
せんや何り実や部ののこ

めんく此身に考へくこの
ととる若く足一と此身は
端よりて病言はるるやで平
まぶとくとおのあうり人間
の唯今終を見ら事や醫之
家康公の御賢と徳人これ
うんと有る世の中此果言
とらこの故あり刻ら諸府

所隠居^{えきり}所^{ところ}と定^{さだ}めり是^{こゝ}り是^{こゝ}深^{ふか}き
以^もて又^{また}凡^{たゞ}そめヶ条^{じょう}此^{こゝ}大^{おほ}本^{ほん}なり
去^{こゝろ}ぬる交^{まじ}長^{なが}八^{はち}年^{ねん}の喜^{よろこ}

將軍 宣^{のたま}下^{くだ}り廊^{らう}下^げ相^{さう} 加^か藤^{ふじ}
池^い田^{でん} 淡^{たん}野^の ち^ちび^び 子^こ 子^こ 卯^うの
徳^{とく}大^{だい}名^なは 邦^{くに}を^をめ^める^るの^の秀^{ひで}頼^{より}
十^{じゅう}八^{はち}年^{ねん}も^も成^なり^りゆ^ゆり^りの^の集^{あつ}院^{いん}系^{けい}
あ^あつ^つく^くお^お軍^{ぐん}職^{しやく}を^を懐^{かか}り^りや^やー

との以^も約^{やく}未^まり^り志^しら^らる^る平^{へい}一^{いつ}と^とや
十^{じゅう}三^{さん}女^{にょ}も^も成^なり^り玉^{たま}の^の實^{じつ}子^こ一^{いつ}支^し
年^{ねん}此^{こゝ}内^{うち}之^の志^しら^らる^る一^{いつ}支^し
内^{うち}懐^{かか}り^りる^る此^{こゝ}時^{とき}々^々天^{てん}下^げ此^{こゝ}人^{ひと}よ
家^{いへ}康^{やす}公^{こう}志^し信^{のぶ}と^と交^{まじ}る^るひ^ひと^とあ^あり
る^るり^りの^の志^しら^らる^る未^まり^りの^の秀^{ひで}頼^{より}幼^{こども}年^{ねん}
の^の志^しら^らる^る秀^{ひで}忠^{ただ}公^{こう}一^{いつ}支^し
懐^{かか}り^り是^{こゝ}志^しら^らる^る時^{とき}々^々二^に代^{だい}乃^{なり}

將軍職也然んば
秀忠公より秀頼へ譲るべきと
れり約束ありしに上御聲也
此の時を以て天下と云ふ相
續との事ありて今日天下平均
ありしこと古太閤のありし
まゝにありて天下は徳大名大坂
は出仕前とのごとく

家康公と同格なり大坂の秀頼
は事々たる徳敵と物も前
この如く故その威をく
して又天下武人の將軍
あるがごとくありて
秀忠公は徳讓りあるに實事大
坂同格なり將軍職と同しく
政事の国事よりあり然る時

又一どんふへ致して

家康公は、大所所極まじりや
奉り時を大坂よりも言致まじり
く一候を離れぬと大坂の威
をその時より居べしとの事
あり、是こそ大坂より言致まじり
新ひあつし、由家臣の候等
徳事とす

家康公一伺

かひなきんとし、所分けり
つけく又後河ごがの 所下げち知
事りし時をことごとくおと
来りこれ別ち天下一統いつしゆ
古き答のあつし、まじりもけづり
ありて 大所所極
の御威光ごきこうを言く如くとの
事あり、是に御表年ごひょうねんの時

よりいりくくしと西幸賞つて
西安樂の車のかしをり今
御隠居松がされく清身と
千の尊神威ひのかしをり
を休めしむるをさとのほ叔
禁裡堂上よりも又徳大名も
徳子
大御所様
お伺ぐらへんと御威光御

又 秀忠公内大臣千任友
有とくく有御極の人をば是教
秀忠公乃御威光御守るべき
とのち青又古語りいり
あく古の志と
く御初年此御後刻千内
生息有く同志十年余の

河洲深河りやとて古郷の
如く 昂正結く浅呂大暮
薩占由大頼有て 平天下哉
支配さるる千一夜を後府に
居して由中安楽懸業河り
ん事と御願重有 け終る
當由に法人とあり 洲深在
ふ子の味ひを冥在 糸靴の路

次あれは生性返千の御礼
られく法人と心後させん
思し百なり結れを被るん
の河りく深夷 御出度之
後府御城の天守を七重井上
大和棟梁とてお集ま由城の
りつてて丈夫也とて右河
の荒く 結の糸も糸末

ありふりて徳人を感
 一奉り又布曲帰の度堂言席
 仕り内曲帰を
 家康公の
 御繩張ありり形事
 家康公御院有る天下は
 沸ふれ徳法度をしりて事
 天下万歳唱り去程小長
 十年己四月十六日

秀忠公ひでたけ参まゐ 内うち有ありまるま 後のち二に位い
 内うち大臣だいじん征夷大将軍せいゐだいしやうぐん 宣下のたま也なり
 池清

関ヶ原軍記三編卷之三拾六 大尾 池清

